

桑名市障害福祉アンケート調査
結果報告書
＜概要版＞

令和 8 年 7 月
三重県 桑名市

調査実施の概要

調査の目的

障害者基本法第 11 条第 3 項の規定に基づく「桑名市障害者計画」および、障害者総合支援法第 88 条の規定に基づく「桑名市障害福祉計画」ならびに児童福祉法第 33 条の 20 第 1 項の規定に基づく「桑名市障害児福祉計画」を策定するうえで必要となるニーズ等の把握や第 5 期計画の課題整理等の基礎資料とするため、障がいのある方、障がいのあるお子さん、市民等を対象としたアンケート調査を行うものです。

調査の実施方法と配布・回収状況

(1)調査の種類と対象者

調査の種類	抽出方法	配布数
一般市民	満 18 歳以上の市民から無作為抽出	800 件
障害者	満 18 歳以上の障害者手帳所持者から無作為抽出	1,200 件
障害児	満 18 歳未満の障害者手帳所持者から無作為抽出	400 件

(2)調査方法

調査対象者へ調査票を郵送で送付し、郵送で回収
またWEBの回答フォームによる回答

(3)調査時期

令和8年3月23日～4月13日

(4)配布・回収状況

	配布数		回収数		回収率
			うち紙回答	うち web 回答	
一般市民	800	302	240	62	37.8%
障害者	1,200	614	522	92	51.2%
障害児	400	209	113	96	52.3%

障害者アンケート調査結果

障害のある方の状況

問9 あなたがお持ちの手帳や障害について、障害の程度などお答えください
(あてはまるものすべてに○)

「身体障害者手帳」が44.5%で最も多く、「療育手帳」が31.8%、「精神保健福祉手帳」が29.5%が続いています。発達障害も16.3%となっています。
複数の障害特性に対応できる相談・支援体制の充実が求められます。

件数(n値)	614
身体障害者手帳	44.5%
療育手帳	31.8%
精神保健福祉手帳	29.5%
難病	5.5%
高次脳機能障害	3.1%
発達障害	16.3%
無回答	2.0%

- ・ 障害者総合支援法の対象となる難病は、令和7年4月1日現在 376 疾病
- ・ 高次脳機能障害とは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障害などにより脳に損傷を受けその後遺症などとして生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害などを指すもの
- ・ 発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など

※次ページ以降の障害種別の区分は

身体障害者：身体障害者手帳を所持と回答

知的障害者：療育手帳を所持と回答

精神障害者：精神保健福祉手帳を所持と回答

その他の障害対象者：難病、高次脳機能障害、発達障害に該当と回答

※なお、複数項目に回答があった場合は、それぞれでカウントしています。

問2 あなたの年齢をお答えください（令和8年1月末日現在）

「75歳以上」が21.3%で最も多く、「20代」が16.4%で続いており、年齢層に幅がみられます。

障害種別にみると、身体障害者では「75歳以上」が46.2%と多く、知的障害者では「20代」が42.6%、精神障害者では「40代」が26.0%と多くなっています。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
20代未満	3.4%	0.4%	8.7%	3.9%	7.1%
20代	16.4%	2.9%	42.6%	13.3%	30.0%
30代	12.5%	5.1%	23.1%	14.4%	17.1%
40代	13.4%	5.1%	13.8%	26.0%	14.3%
50代	13.0%	12.1%	5.6%	22.7%	12.1%
60歳～64歳	7.0%	8.1%	3.6%	8.8%	7.1%
65歳～69歳	7.2%	10.6%	2.1%	7.7%	3.6%
70歳～74歳	5.4%	9.5%	0.0%	2.2%	3.6%
75歳以上	21.3%	46.2%	0.5%	0.6%	5.0%
無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%

問3 40歳以上の方にお聞きしますが、介護保険において要支援・要介護と認定されていますか（○は1つだけ）

無回答を除くと、「認定されていない」が38.8%で最も多く、「認定されている」は12.7%となっています。
 障害種別にみると、身体障害者では「認定されている」が23.1%と他の障害種別より多く、精神障害者では「認定されていない」が40.9%となっています。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
認定されている	 12.7%	 23.1%	3.6%	 6.6%	 10.0%
認定されていない	 38.8%	 50.2%	 15.4%	 40.9%	 21.4%
わからない	 7.7%	 9.2%	 4.6%	 8.3%	 4.3%
無回答	 40.9%	 17.6%	 76.4%	 44.2%	 64.3%

問6 あなたと一緒に暮らしている人を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が43.5%で最も多く、「配偶者」が32.1%が続いています。
 障害種別にみると、身体障害者では「配偶者」が51.6%と多く、知的障害者では「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が83.6%と特に多くなっています。
 家族と同居している人が多く、特に知的障害者では家族との同居が多いことから、家族負担の軽減に向けた取組が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
父母・祖父母・兄弟・姉妹	 43.5%	 17.2%	 83.6%	 48.1%	 65.7%
親族	4.2%	5.5%	2.6%	3.9%	0.7%
配偶者	 32.1%	 51.6%	3.6%	 27.6%	 17.1%
子ども	 17.1%	 26.0%	1.5%	 16.0%	 7.1%
一人暮らし	 12.4%	 16.5%	3.6%	 13.8%	 7.9%
その他	 7.2%	 6.6%	 9.7%	 6.1%	 10.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%

問8 あなたを主に介助してくれる方の年齢をお答えください（○は1つだけ）

無回答を除くと、「50代」が18.7%で最も多く、「75歳以上」が16.4%が続いています。

障害種別にみると、身体障害者では「75歳以上」が25.6%、知的障害者では「50代」が28.2%と多く、介助者の年齢層に違いがみられます。

介助者は50代や75歳以上が多く、介助者の加齢に伴う支援継続への不安がうかがえることから、将来的な介助体制を見据えた支援が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
20代未満	0.3%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
20代	0.8%	0.7%	0.5%	1.1%	0.7%
30代	2.4%	2.6%	0.5%	3.3%	3.6%
40代	5.0%	6.6%	5.6%	4.4%	5.0%
50代	18.7%	14.7%	28.2%	14.9%	21.4%
60歳～64歳	9.9%	7.3%	16.9%	6.6%	12.9%
65歳～69歳	8.1%	9.9%	7.7%	6.1%	8.6%
70歳～74歳	5.4%	6.6%	4.6%	4.4%	5.0%
75歳以上	16.4%	25.6%	7.7%	9.9%	9.3%
無回答	32.7%	26.0%	28.2%	48.6%	33.6%

問 11 問 10 で身体障害のうち「視覚」に該当のある方にお聞きしますが、あなたは点字が読めますか（○は 1 つだけ）

「読めないが不要ない」が 83.3%で最も多く、「必要だと思うが読めない」が 16.7%となっています。「読める」と回答した方はいませんでした。
点字を読めない人が多いことから、音声、拡大文字、デジタル媒体など、利用しやすい情報保障の充実が求められます。

件数(n値)	12
読める	0.0%
必要だと思うが読めない	 16.7%
読めないが不要ない	 83.3%
無回答	0.0%

問 12 問 10 で身体障害のうち「聴覚・平衡機能」または「音声・言語・そしゃく機能」に該当のある方にお聞きしますが、あなたは日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか（あてはまるものすべてに○）

「補聴器や人工内耳などの補聴機器」が 68.4%で最も多く、「筆談・要約筆記」と「手話・手話通訳」がともに 21.1%で続いています。回答者数は少ないものの、複数のコミュニケーション手段が利用されています。
補聴機器の利用が多い一方、筆談・要約筆記や手話・手話通訳も一定数みられることから、場面に応じた意思疎通支援の確保が求められます。

件数(n値)	19
補聴器や人工内耳などの補聴機器	 68.4%
筆談・要約筆記	 21.1%
読話・口話	 10.5%
手話・手話通訳	 21.1%
人工喉頭などの音声補助具	0.0%
その他	 15.8%
無回答	0.0%

障害福祉サービスの利用状況

問 14 次の障害福祉サービスの利用状況と満足度、今後の利用予定を教えてください（①から⑳のそれぞれについて、いずれか1つに○）

<全体>

全体では、多くのサービスにおいて「現在利用しておらず、今後も利用するつもりはない」とする回答が多くなっています。特に、「同行援護」が51.1%、「重度訪問介護」が50.0%、「居宅介護（ホームヘルプ）」と「就労継続支援（A型）」がそれぞれ47.7%となっています。多くのサービスで、今後の利用予定がないとする回答が4割前後を占めています。

一方、「現在は利用していないが、今後利用したい」は、「行動援護」が19.5%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が19.2%、「地域定着支援」が17.1%、「共同生活援助（グループホーム）」が16.3%、「自立訓練」が16.0%となっています。これらのサービスについては、今後の利用につながるニーズがうかがえます。

現在利用しているサービスでは、「計画相談支援」の「現在利用しており、満足している」が20.7%と最も多く、次いで「就労継続支援（B型）」が10.6%、「生活介護」が7.2%となっています。

なお「現在利用しているが、あまり満足していない」は、いずれのサービスでも少なく、「計画相談支援」でも3.6%にとどまっています。

また、「わからない／どちらともいえない」は、「地域移行支援」が30.3%、「重度障害者等包括支援」と「地域定着支援」がそれぞれ28.2%となっています。サービス内容や利用方法が十分に伝わっていない可能性があるため、わかりやすい情報提供と相談支援の充実が求められます。

	全体						
	件数(n値)	現在利用し ており、満 足している	現在利用し ているが、 あまり満足 していない	現在は利用 していない が、今後利 用したい	現在利用し ておらず、 今後も利用 するつもり はない	わからない ／どちらと もいえない	無回答
①居宅介護 (ホームヘルプ)	614	2.8%	0.7%	12.9%	47.7%	22.0%	14.0%
②重度訪問介護	614	0.3%	0.0%	9.6%	50.0%	24.3%	15.8%
③行動援護	614	1.5%	0.8%	19.5%	40.1%	23.3%	14.8%
④重度障害者等包括 支援	614	0.2%	0.3%	9.1%	47.1%	28.2%	15.1%
⑤同行援護	614	0.0%	0.5%	6.0%	51.1%	24.9%	17.4%
⑥療養介護	614	1.3%	1.1%	13.2%	42.8%	25.7%	15.8%
⑦生活介護	614	7.2%	1.8%	12.4%	42.3%	21.8%	14.5%
⑧短期入所 (ショートステイ)	614	3.1%	1.6%	19.2%	38.9%	22.3%	14.8%
⑨自立訓練(機能訓 練、生活訓練)	614	3.1%	1.3%	16.0%	39.9%	25.2%	14.5%
⑩就労選択支援	614	4.2%	1.1%	13.0%	40.6%	26.1%	15.0%
⑪就労移行支援	614	2.3%	0.7%	14.0%	42.8%	24.6%	15.6%
⑫就労継続支援 (A型)	614	3.1%	0.8%	10.3%	47.7%	20.2%	17.9%
⑬就労継続支援 (B型)	614	10.6%	2.4%	7.8%	45.8%	19.1%	14.3%
⑭就労定着支援	614	2.6%	0.2%	10.9%	43.5%	25.7%	17.1%
⑮自立生活援助	614	2.0%	0.8%	13.8%	41.9%	26.4%	15.1%
⑯共同生活援助 (グループホーム)	614	4.7%	1.1%	16.3%	40.9%	23.8%	13.2%
⑰施設入所支援	614	2.6%	0.5%	13.4%	41.4%	28.0%	14.2%
⑱計画相談支援	614	20.7%	3.6%	12.9%	25.2%	24.3%	13.4%
⑲地域移行支援	614	0.8%	0.3%	9.0%	42.2%	30.3%	17.4%
⑳地域定着支援	614	0.2%	0.3%	17.1%	37.8%	28.2%	16.4%

各種場面での困りごと・不安

問 20 問 17 で「ほぼ毎日」、「2～3 回以上」または「1 回程度」を選択された方にお聞きしますが、外出する時に困ることは何ですか
(あてはまるものすべてに○)

「困った時にどうすればいいのか心配」が 27.5%で最も多く、「外出にお金がかかる」が 24.2%、「公共交通機関が少ない(ない)」が 24.0%で続いています。
障害種別にみると、知的障害者とその他の障害対象者では「困った時にどうすればいいのか心配」が多く、精神障害者では「外出にお金がかかる」が 37.3%と多くなっています。
外出時の不安や経済的負担、公共交通機関の少なさを挙げる人が多くなっていることから、安心して外出できる支援や、交通手段の確保が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	538	235	176	161	117
公共交通機関が少ない(ない)	24.0%	21.3%	23.3%	26.1%	27.4%
列車やバスの乗り降りが困難	11.0%	13.2%	11.4%	9.3%	15.4%
道路や駅に階段や段差が多い	12.5%	22.6%	4.0%	6.2%	6.8%
切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	11.9%	7.7%	21.0%	9.3%	17.9%
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーター等)	7.6%	13.6%	5.7%	3.7%	5.1%
介助者が確保できない	4.8%	4.3%	9.1%	3.7%	6.0%
外出にお金がかかる	24.2%	20.0%	19.3%	37.3%	29.1%
周囲の目が気になる	11.0%	3.4%	13.6%	19.3%	13.7%
発作等突然の身体の変化が心配	17.1%	16.6%	14.2%	23.0%	23.9%
困った時にどうすればいいのか心配	27.5%	16.2%	40.9%	31.1%	46.2%
その他	10.2%	13.2%	8.5%	6.2%	7.7%
無回答	18.2%	20.9%	15.9%	14.9%	10.3%

問 41 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか（あてはまるものすべてに○）

「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 57.8%で最も多く、「投薬や治療などの医療的ケアが受けられない」が 53.1%で続いています。
 障害種別にみると、知的障害者では「周囲とコミュニケーションがとれない」が 57.9%と多く、その他の障害対象者では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 69.3%と多くなっています。
 災害時は避難所環境や医療的ケアへの不安が多く、意思疎通支援を必要とする人もみられることから、避難所環境、医療的支援、意思疎通支援の確保が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
投薬や治療などの医療的ケアが受けられない	 53.1%	 51.6%	 46.7%	 65.7%	 57.9%
補装具の使用が困難になる	 9.0%	 16.1%	 5.1%	 2.8%	 9.3%
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	 10.4%	 17.2%	 7.7%	 5.5%	 8.6%
救助を求めることができない	 27.7%	 22.3%	 48.7%	 18.2%	 33.6%
安全なところまで、迅速に避難することができない	 42.0%	 46.9%	 50.8%	 26.0%	 56.4%
被害状況、避難場所等の情報（文字・音声情報）が入手できない	 24.6%	 20.5%	 40.5%	 20.4%	 35.0%
周囲とコミュニケーションがとれない	 32.2%	 17.9%	 57.9%	 32.0%	 50.0%
避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	 57.8%	 58.2%	 61.0%	 55.8%	 69.3%
特になし	 11.1%	 12.5%	 9.7%	 8.8%	 6.4%
その他	 4.1%	 3.3%	 2.1%	 7.2%	 6.4%
無回答	 2.6%	 3.7%	 2.6%	 1.7%	 2.1%

各種場面での希望する支援

問 16 問 15 で「福祉施設（入所施設）」または「病院に入院中」を選択された方にお聞きしますが、あなたが希望する生活をするためには、どのような支援があればよいと思いますか（あてはまるものすべてに○）

「生活訓練などの充実」が 30.3%で最も多く、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」と「経済的な負担の軽減」がともに 27.3%で続いています。

障害種別にみると、精神障害者では「地域住民などの理解」が 44.4%と多く、身体障害者では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」と「生活訓練などの充実」が 31.3%となっています。

施設・病院から希望する生活へ移るためには、生活訓練、在宅サービス、経済的負担の軽減へのニーズが多くなっていることから、地域生活への移行を支える支援と地域理解の促進が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	33	16	12	9	13
在宅で医療ケアなどが適切に得られること	21.2%	12.5%	16.7%	33.3%	7.7%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	27.3%	31.3%	25.0%	22.2%	30.8%
障害者に適した住居の確保	24.2%	25.0%	25.0%	33.3%	7.7%
生活訓練などの充実	30.3%	31.3%	33.3%	33.3%	15.4%
経済的な負担の軽減	27.3%	25.0%	16.7%	33.3%	15.4%
相談対応などの充実	21.2%	18.8%	25.0%	22.2%	7.7%
地域住民などの理解	18.2%	6.3%	8.3%	44.4%	0.0%
その他	6.1%	6.3%	16.7%	0.0%	0.0%
無回答	33.3%	31.3%	33.3%	33.3%	46.2%

問 25 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか
(あてはまるものすべてに○)

「職場の人々が障害について理解がある」が 56.5%で最も多く、「短時間勤務や勤務日数などの配慮がされている」が 39.4%で続いています。
障害種別にみると、精神障害者では「職場の人々が障害について理解がある」が 69.6%、「短時間勤務や勤務日数などの配慮がされている」が 58.0%と多くなっています。
職場理解や勤務条件への配慮を求める声が多くなっていることから、職場での障害理解、勤務条件の配慮、相談機関との連携を進めることが求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
企業ニーズにあった職業訓練がある	21.3%	16.5%	18.5%	30.4%	29.3%
通勤手段が確保されている	34.2%	26.4%	42.1%	37.0%	41.4%
勤務場所がバリアフリー化されている	16.6%	22.0%	9.2%	15.5%	17.1%
短時間勤務や勤務日数などの配慮がされている	39.4%	32.2%	31.3%	58.0%	47.1%
在宅勤務の制度が導入されている	19.2%	16.8%	9.2%	32.6%	21.4%
職場の人々が障害について理解がある	56.5%	41.8%	66.2%	69.6%	66.4%
職場と障害者相談センターや行政機関の連携した支援がある	37.5%	22.3%	54.4%	46.4%	52.1%
職場以外での相談対応、支援がある	26.7%	15.0%	33.3%	36.5%	36.4%
その他	6.0%	6.6%	5.1%	6.1%	8.6%
無回答	20.4%	32.2%	10.3%	10.5%	11.4%

相談について

問 27 あなたは、各種相談体制について、どのように感じていますか
(○は1つだけ)

「どちらともいえない」が31.9%と最も多く、次いで「満足している」が23.6%、「やや満足」が21.7%となっています。「満足している」と「やや満足」を合わせると45.3%となり、相談体制に対して一定の満足がみられます。一方で、「やや不満」は9.6%、「不満」は4.7%となっています。

障害種別にみると、知的障害者では「満足している」が30.8%と他の障害種別に比べて多く、「やや満足」も25.1%となっています。一方、精神障害者では「どちらともいえない」が35.4%と最も多く、身体障害者でも33.3%となっています。

相談体制に満足している人が一定数いる一方で、判断しにくいと感じている人も多いことから、相談窓口や支援内容の周知を進め、必要な時に相談しやすい体制づくりが求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
満足している	23.6%	20.9%	30.8%	21.5%	20.0%
やや満足	21.7%	20.1%	25.1%	22.1%	28.6%
やや不満	9.6%	9.2%	9.2%	11.0%	9.3%
不満	4.7%	4.0%	4.6%	6.6%	6.4%
どちらともいえない	31.9%	33.3%	24.1%	35.4%	29.3%
無回答	8.5%	12.5%	6.2%	3.3%	6.4%

問 28 問 27 で、相談体制について「やや不満」または「不満」を選択された方にお聞きしますが、どのような点に不満を感じていますか（あてはまるものすべてに○）

「気軽に相談できる場や人がいない」が 45.5%で最も多く、次いで「専門的な相談窓口が不足している」が 39.8%となっています。

障害種別にみると、身体障害者では「気軽に相談できる場や人がいない」が 52.8%と半数を超えており、精神障害者でも 46.9%と高くなっています。また、「専門的な相談窓口が不足している」についても、身体障害者で 44.4%、精神障害者で 43.8%、その他の障害対象者で 40.9%となっており、専門的な相談体制へのニーズがうかがえます。

気軽に相談できる場や人がいないことや、専門的な相談窓口の不足を挙げる人が多くなっていることから、身近に気軽に相談できる場を確保するとともに、専門的な相談窓口の充実や、相談先に関する情報の周知を進めることが求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	88	36	27	32	22
近所に相談の場や人がいない	22.7%	27.8%	11.1%	25.0%	18.2%
気軽に相談できる場や人がいない	45.5%	52.8%	33.3%	46.9%	36.4%
夜間・休日に相談できる場や人がいない	27.3%	33.3%	18.5%	25.0%	13.6%
専門的な相談窓口が不足している	39.8%	44.4%	37.0%	43.8%	40.9%
コミュニケーション支援が十分ではない	23.9%	30.6%	25.9%	15.6%	22.7%
その他	8.0%	2.8%	3.7%	15.6%	13.6%
無回答	18.2%	8.3%	25.9%	25.0%	27.3%

行政の取組への満足度

問 46 あなたは、桑名市役所（市の公共施設・機関）の窓口等での対応についてどのように思われますか（○は1つだけ）

市役所等の窓口対応について「やや満足」が 30.9%で最も多く、「満足している」が 29.5%で続いています。

障害種別にみると、身体障害者と精神障害者では「満足している」と「やや満足」を合わせた回答が6割台となっています。知的障害者では「どちらともいえない」が 28.7%と比較的多くなっています。

窓口対応は肯定的な回答が多い一方、「どちらともいえない」もみられることから、わかりやすい説明と配慮の継続が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
満足している	29.5%	33.0%	23.1%	33.1%	25.7%
やや満足	30.9%	31.1%	28.2%	34.3%	32.1%
あまり満足していない	10.7%	11.0%	10.3%	10.5%	12.9%
満足していない	4.7%	4.0%	4.6%	5.5%	7.9%
どちらともいえない	20.7%	16.8%	28.7%	16.0%	19.3%
無回答	3.4%	4.0%	5.1%	0.6%	2.1%

桑名市における障害福祉の取組

問 42 まちづくりについてお聞きします。桑名市は、障害者にとって暮らしやすいまちだと思いますか（○は1つだけ）

桑名市が障害者にとって暮らしやすいまちだと思うかについて「どちらともいえない」が30.9%で最も多く、「ややそう思う」が22.0%で続いています。

障害種別にみると、身体障害者、知的障害者、その他の障害対象者では「どちらともいえない」が多く、精神障害者では「ややそう思う」が27.1%と多くなっています。

暮らしやすさを実感できる生活環境と支援の充実が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
そう思う	11.2%	11.0%	11.3%	10.5%	5.7%
ややそう思う	22.0%	24.9%	14.9%	27.1%	24.3%
あまり思わない	21.7%	20.5%	22.6%	21.0%	25.7%
そう思わない	12.7%	12.1%	15.9%	15.5%	12.9%
どちらともいえない	30.9%	29.3%	34.4%	25.4%	30.7%
無回答	1.5%	2.2%	1.0%	0.6%	0.7%

問 44 あなたが、暮らしやすくなるために、充実してほしいことはどのようなことですか（特に思うもの2つに○）

「医療サービス」が27.9%で最も多く、「日常生活支援」が21.5%、「相談支援」が21.0%が続いています。

障害種別にみると、身体障害者と知的障害者では「医療サービス」が多く、精神障害者では「相談支援」が29.3%、その他の障害対象者では「日常生活支援」が25.0%と多くなっています。

医療サービス、日常生活支援、相談支援を求める声が多くなっていることから、医療、生活、相談を組み合わせた総合的な支援の充実が求められます。

	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	その他の 障害対象者
件数(n値)	614	273	195	181	140
日常生活支援	21.5%	21.2%	24.6%	23.8%	25.0%
相談支援	21.0%	19.8%	16.4%	29.3%	22.1%
就労支援	13.7%	4.8%	14.4%	24.3%	22.1%
医療サービス	27.9%	30.4%	28.7%	23.8%	24.3%
施設支援	16.0%	10.6%	32.3%	9.9%	24.3%
災害時の支援	20.0%	23.1%	17.4%	16.6%	17.1%
情報提供	12.2%	13.6%	9.2%	12.2%	11.4%
特にない	12.9%	14.3%	10.8%	11.6%	7.9%
その他	2.3%	1.8%	1.5%	3.9%	2.9%
無回答	11.1%	12.8%	9.2%	8.3%	9.3%

障害児アンケート調査結果

障害のあるお子さんの状況

障害のあるお子さんの障害種別

「知的障害者」が45.5%と最も多くなっていますが、「無回答」が45.0%と半数近くとなっています。「身体障害者」11.5%、「精神障害者」が7.2%であり、複数の障害手帳を所持しているお子さんは9.1%でした。

件数(n値)	209
身体障害者 (身体障害者手帳)	 11.5%
知的障害者（療育手帳）	 45.5%
精神障害者 (精神障害者保健福祉手帳)	 7.2%
無回答	 45.0%

※なお、複数項目に回答があった場合は、それぞれでカウントしています。

問2 発達に関する不安をお持ちのお子さん、障害のあるお子さんの年齢をお答えください（令和8年1月末日現在）

「6歳」「10歳」がともに9.6%で最も多く、次いで「5歳」が9.1%となっています。一方、「0歳」「1歳」「18歳」はいずれも0.5%と少なくなっています。

件数(n値)	209
0歳	0.5%
1歳	0.5%
2歳	1.0%
3歳	4.3%
4歳	8.6%
5歳	9.1%
6歳	9.6%
7歳	7.7%
8歳	7.2%
9歳	8.6%
10歳	9.6%
11歳	2.4%
12歳	6.7%
13歳	4.3%
14歳	3.8%
15歳	5.7%
16歳	3.8%
17歳	3.3%
18歳	0.5%
無回答	2.9%

障害福祉サービスの利用状況

問 28 お子さんは、次のサービスを利用していますか。また今後利用したいと考えますか。下記の項目について、「現在利用しているか」（○は1つだけ）と、「今後利用したいか」（○は1つだけ）の両方を回答してください

〈現在の利用状況〉

「②放課後等デイサービス」は「利用している」が 68.4%で最も多くなっています。一方、その他のサービスでは「利用していない」が多く、特に「⑦居宅介護・重度訪問介護」は 93.3%、「⑧移動支援」は 92.8%、「④居宅訪問型児童発達支援」「⑤日中一時支援」はいずれも 92.3%となっています。
各サービスの内容や利用方法について周知を進めるとともに、家庭の状況や子どもの成長段階に応じて、必要なサービスにつながりやすい相談・調整体制の充実が求められます。

	件数(n値)	利用している	利用していない	無回答
①児童発達支援＜現在＞	209	40.7%	51.2%	8.1%
②放課後等デイサービス＜現在＞	209	68.4%	28.2%	3.3%
③保育所等訪問支援＜現在＞	209	19.1%	76.6%	4.3%
④居宅訪問型児童発達支援＜現在＞	209	2.9%	92.3%	4.8%
⑤日中一時支援＜現在＞	209	2.9%	92.3%	4.8%
⑥短期入所（ショートステイ）＜現在＞	209	4.3%	90.9%	4.8%
⑦居宅介護・重度訪問介護＜現在＞	209	1.4%	93.3%	5.3%
⑧移動支援＜現在＞	209	1.9%	92.8%	5.3%
⑨日常生活用具の利用＜現在＞	209	5.7%	89.0%	5.3%
⑩補装具の利用＜現在＞	209	6.7%	88.0%	5.3%

<今後の利用意向>

今後利用したいサービスは、「②放課後等デイサービス」が71.3%と最も多く、現在の利用状況と同様に高いニーズがみられます。次いで、「①児童発達支援」が37.3%、「③保育所等訪問支援」が26.8%、「⑥短期入所（ショートステイ）」が24.4%となっています。一方、多くのサービスでは「利用の要件に該当しない」の割合が高く、特に「⑦居宅介護・重度訪問介護」は78.0%、「⑨日常生活用具の利用」は77.5%、「⑩補装具の利用」は76.6%となっています。

放課後等デイサービスへのニーズが高い一方で、その他のサービスについては、対象要件や利用できる場面が十分に伝わっていない可能性も考えられます。各サービスの内容や利用条件、相談先をわかりやすく周知し、必要な家庭が適切な支援につながりやすい体制づくりが求められます。

	件数(n値)	利用をしたい	利用をやめたい	利用の要件に該当しない	無回答
①児童発達支援<今後>	209	37.3%	1.0%	45.0%	16.7%
②放課後等デイサービス<今後>	209	71.3%	3.8%	10.0%	14.8%
③保育所等訪問支援<今後>	209	26.8%	2.9%	56.5%	13.9%
④居宅訪問型児童発達支援<今後>	209	11.5%	1.4%	72.7%	14.4%
⑤日中一時支援<今後>	209	19.1%	2.9%	62.7%	15.3%
⑥短期入所（ショートステイ）<今後>	209	24.4%	2.4%	58.9%	14.4%
⑦居宅介護・重度訪問介護<今後>	209	5.3%	1.9%	78.0%	14.8%
⑧移動支援<今後>	209	16.3%	2.4%	67.5%	13.9%
⑨日常生活用具の利用<今後>	209	6.7%	1.9%	77.5%	13.9%
⑩補装具の利用<今後>	209	8.1%	1.4%	76.6%	13.9%

問 29 問 28 のサービスをすべての項目で、現在「利用していない」を選択された方にお伺いします

サービスを利用していない理由を教えてください（あてはまるものすべてに○）

「特に必要でないから」が 69.2%で最も多く、次いで「どのようなサービスがあるかわからないから」「サービスの内容があわないから」がいずれも 15.4%となっています。「利用したいサービスがないから」「利用の仕方がわからないから」「近くに事業所がないから」「サービスに不満があるから」「その他」はいずれも 7.7%と少なくなっています。

未利用の理由は「特に必要でないから」が多いものの、サービスの種類や内容が十分に伝わっていないことや、ニーズに合ったサービスにつながっていないことも考えられます。そのため、サービス内容や利用方法をわかりやすく周知するとともに、必要な人が利用しやすい情報提供の充実が求められます。

件数(n値)	13
利用したいサービスがないから	7.7%
利用の仕方がわからないから	7.7%
近くに事業所がないから	7.7%
どのようなサービスがあるかわからないから	15.4%
サービスに不満があるから	7.7%
サービスの内容があわないから	15.4%
特に必要でないから	69.2%
その他	7.7%
無回答	0.0%

各種場面での困りごと・不安

問4 お子さんについて、不安なことや該当することを教えてください
(あてはまるものすべてに○)

「対人関係などコミュニケーションに関する不安がある」が74.6%で最も多く、次いで「ことばの発達に関する不安がある」が52.2%となっています。また、「多動や落ち着きに関する不安がある」が42.6%、「こだわり・繰り返し行為など行動に関する不安がある」が40.7%となっており、いずれも比較的多くなっています。コミュニケーション、ことば、行動面の不安が多く、早期から相談・療育につなげる体制づくりが求められます。

件数(n値)	209
ことばの発達に関する不安がある	52.2%
運動発達に関する不安がある	32.1%
多動や落ち着きに関する不安がある	42.6%
こだわり・繰り返し行為など行動に関する不安がある	40.7%
対人関係などコミュニケーションに関する不安がある	74.6%
低出生体重児 (2,500g未満)で出生	8.6%
広汎性発達障害(自閉症・アスペル ガー症候群・自閉症スペクトラム)	39.7%
難病	4.8%
医療的ケア(たん吸引、経管栄養、 酸素吸入など)が必要	3.8%
定期的な服薬が必要	22.0%
自己注射が必要	1.4%
高次脳機能障害	1.0%
特になし	0.0%
その他	7.7%
無回答	1.0%

問 36 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか（あてはまるものすべてに○）

「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 59.8%と最も多くなっています。次いで、「周囲とコミュニケーションがとれない」が 44.0%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 35.4%、「救助を求めることができない」が 28.2%となっています。また、「投薬や治療などの医療的ケアが受けられない」も 25.4%みられます。

災害時には、避難先の設備や生活環境に対する不安に加え、周囲とのコミュニケーション、避難行動、救助要請、医療的ケアの継続に関する不安が大きいことがうかがえます。個々の状況に応じた避難支援や情報伝達手段の確保、福祉避難体制の充実など、災害時に安心して避難・生活できる支援体制の整備が求められます。

件数(n値)	209
投薬や治療などの医療的ケアが受けられない	25.4%
補装具の使用が困難になる	5.7%
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	4.8%
救助を求めることができない	28.2%
安全なところまで、迅速に避難することができない	35.4%
被害状況、避難場所等の情報（文字・音声情報）が入手できない	22.0%
周囲とコミュニケーションがとれない	44.0%
避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	59.8%
特にない	22.0%
その他	7.2%
無回答	2.4%

各種場面での希望する支援

問 21 発達に関する不安や障害のあるお子さんが早期に適切な支援を受けるために必要なことは何だと思いますか（あてはまるものすべてに○）

「専門家（医師、保健師、家庭児童相談員など）による相談体制の充実」が 72.2%で最も多く、次いで「発達支援に関する情報提供の充実」が 55.5%、「就園・就学などの進路選択に関する相談」が 54.5%となっています。また、「児童発達支援事業所の充実」は 46.9%、「保育所（園）や幼稚園での支援的人員の充実」は 46.4%となっており、身近な支援体制の充実を求める声も多くみられます。

発達に関する不安や障害のあるお子さんが早期に適切な支援を受けるためには、専門的な相談体制の充実に加え、発達支援に関する情報提供や進路選択に関する相談支援が重要であることがうかがえます。保健・医療・福祉・教育などの関係機関が連携し、必要な支援に早期につながりやすい体制づくりが求められます。

件数(n値)	209
専門家（医師、保健師、家庭児童相談員など）による相談体制の充実	72.2%
乳幼児健診の充実（1か月、4か月、10か月、1歳、1歳6か月、3歳、5歳）	43.5%
ソーシャルネットワーク（メール・ラインなど）による相談体制の充実	22.5%
発達支援に関する情報提供の充実	55.5%
児童発達支援事業所の充実	46.9%
自宅での、保育士など専門職による相談や発達支援サービスの提供	19.1%
お子さんの集団生活適応訓練のための、保育士など専門職による保育所（園）等訪問支援の提供	30.6%
専門職による個別訓練（リハビリ・言語訓練・作業訓練など）	42.6%
医療的ケアの提供	10.0%
就園・就学などの進路選択に関する相談	54.5%
同じ特徴や悩みを持つお子さんの保護者同士の情報交換	34.4%
保育所（園）や幼稚園での支援的人員（加配保育士・支援員）の充実	46.4%
その他	3.8%
無回答	0.5%

問 25 今後、充実させてほしい支援などについて教えてください

それぞれの項目について、あなたの考えに最も近いと思う回答を1つ選択してください（①～21のそれぞれについていずれか1つに○）

今後充実させてほしい支援については、多くの項目で「とてもそう思う」が最も多くなっています。特に、「⑨療育を行う施設や職員」が68.9%、「⑫発達の不安に関する専門家への相談」が67.9%、「⑦専門職による個別訓練（リハビリ・言語訓練・作業訓練など）」が66.0%と高く、療育体制の充実や専門的な相談・訓練へのニーズが高いことがうかがえます。また、「⑪療育の内容や施設についての情報」は64.1%、「⑬保育所（園）や幼稚園での支援的人員の充実」は63.2%となっており、情報提供や身近な場での支援体制の充実を求める声も多くみられます。

一方、「⑧自宅での療育（発達を促す療育）」は「とてもそう思う」が23.4%にとどまり、「ややそう思う」が42.6%で最も多くなっています。また、「⑮同じような発達課題を持つお子さんの保護者との情報交換」や「⑰地域社会の障害に対する理解の促進と啓発のための研修など」についても、「ややそう思う」が「とてもそう思う」を上回っており、必要性は感じられているものの、他の支援に比べると優先度には差がみられます。

専門相談、療育体制、個別訓練へのニーズが多く、これらの支援を安定的・継続的に提供できる体制の整備が求められます。あわせて、在宅での療育支援や保護者同士の情報交換、地域理解の促進、短期入所などについても、一定のニーズに応じた取組の充実が重要です。

	件数(n値)	全く思わない	あまり思わない	ややそう思う	とてもそう思う	無回答
①会話などのコミュニケーション支援	209	1.4%	3.8%	34.9%	56.0%	3.8%
②トイレや食事など日常生活に対する支援	209	8.6%	16.7%	35.4%	34.0%	5.3%
③ことばや読み書きに対する支援	209	2.4%	4.3%	39.2%	49.8%	4.3%
④友など人へのかかわり方に対する支援	209	1.0%	5.7%	30.1%	59.8%	3.3%
⑤集団生活に適応できるよう保育士など専門職による保育所（園）等訪問支援	209	2.9%	10.0%	33.5%	48.3%	5.3%
⑥送り迎えなど通所・通園に対するサービス	209	4.3%	13.9%	27.8%	50.7%	3.3%
⑦専門職による個別訓練（リハビリ・言語訓練・作業訓練など）	209	2.4%	4.8%	22.5%	66.0%	4.3%
⑧自宅での療育（発達を促す療育）	209	6.7%	23.4%	42.6%	23.4%	3.8%
⑨療育を行う施設や職員	209	2.4%	4.8%	19.6%	68.9%	4.3%
⑩保育所（園）・幼稚園	209	4.8%	11.5%	30.1%	49.3%	4.3%
⑪療育の内容や施設についての情報	209	3.8%	1.9%	26.3%	64.1%	3.8%

	件数(n値)	全く思わない	あまり思わない	ややそう思う	とてもそう思う	無回答
⑫発達の不安に関する専門家への相談	209	1.9%	1.0%	25.4%	67.9%	3.8%
⑬保育所（園）や幼稚園での支援的人員（加配保育士・支援員）の充実	209	1.9%	6.2%	24.9%	63.2%	3.8%
⑭保護者が子へのかかわりや技術を身に付ける支援（スキルアップなど）	209	1.9%	4.8%	35.9%	53.6%	3.8%
⑮同じような発達課題を持つお子さんの保護者との情報交換	209	4.8%	17.7%	40.2%	33.5%	3.8%
⑯児童発達支援事業所や保育所（園）・幼稚園職員の支援技術向上	209	2.4%	7.7%	30.6%	54.5%	4.8%
⑰地域社会の障害に対する理解の促進と啓発のための研修など	209	4.3%	17.7%	38.8%	35.4%	3.8%
⑱市役所職員の対応及び意識の向上	209	1.4%	10.5%	31.6%	52.2%	4.3%
⑲中高生向け放課後等デイサービス	209	2.9%	9.1%	30.1%	54.5%	3.3%
⑳医療的ケアが必要な子どもへの支援	209	2.9%	7.2%	30.1%	56.0%	3.8%
㉑短期入所の充実（多世代交流型）	209	4.8%	18.7%	32.1%	40.7%	3.8%

問 30 保護者や家族の方へはどのような支援が必要と考えられますか
(あてはまるものすべてに○)

保護者や家族に必要な支援については、「専門家（保健師、家庭児童相談員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）による障害児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て相談」が 80.4%と最も多くなっています。次いで、「就学・進学に関する相談支援」が 68.4%、「ペアレントトレーニングなどによるサポート」「発達障害児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て経験者の体験談や情報提供」がいずれも 57.4%となっています。

専門家による相談支援や就学・進学に関する相談へのニーズが高く、子どもへの関わり方を学ぶ支援や、同じような経験を持つ保護者からの情報提供も求められていることがうかがえます。一方で、「特に支援の必要ない」は 1.0%にとどまっており、保護者や家族を含めた包括的な支援体制の充実が重要です。

件数(n値)	209
専門家（保健師、家庭児童相談員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）による障害児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て相談	80.4%
ペアレントトレーニング（保護者向けの子への適切な対応法の獲得のためのトレーニング）などによるサポート	57.4%
発達障害児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て経験者の体験談や情報提供	57.4%
保護者への心理的ケアやカウンセリング	53.1%
支援を必要とするお子さんの兄弟、姉妹への心理的ケアやカウンセリング	35.9%
ショートステイ・レスパイト（在宅での介護を一時的に代替し、介護者の負担軽減や休養を図るサービス）	35.4%
障害特性に関する情報提供	42.6%
就職に関する相談支援	56.9%
就学・進学に関する相談支援	68.4%
特に支援の必要ない	1.0%
その他	1.9%
無回答	2.4%

相談について

問 16 現在、お子さんについて悩んでいることや相談したいことがありますか
(あてはまるものすべてに○)

「就学や進学のこと」が 67.0%と最も多く、他の項目を大きく上回っています。次いで、「就職のこと」が 27.3%、「健康や治療のこと」が 25.4%となっています。また、「生活費や経済的なこと」と「緊急時や災害時のこと」はいずれも 22.0%、「外出や移動のこと」「福祉などに関する情報収集のこと」はそれぞれ 19.1%となっています。

就学・進学を中心に、就職を含めた将来の進路に関する不安が大きいことがうかがえます。加えて、医療、経済面、移動、災害時対応、人間関係など相談内容は多岐にわたっており、ライフステージに応じた継続的な相談支援や、必要な情報を得やすい体制づくりが求められます。

件数(n値)	209
健康や治療のこと	25.4%
生活費や経済的なこと	22.0%
介助や介護のこと	10.5%
家事のこと（炊事・洗濯・掃除等）	6.7%
住まいのこと	7.7%
外出や移動のこと	19.1%
就学や進学のこと	67.0%
就職のこと	27.3%
恋愛のこと（交際関係等）	3.3%
緊急時や災害時のこと	22.0%
話し相手がないこと	7.2%
福祉などに関する情報収集のこと	19.1%
家族や地域での人間関係のこと	18.7%
施設内での人間関係のこと	9.6%
特にない	8.6%
その他	2.9%
無回答	1.0%

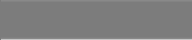
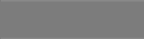
問 17 現在、お子さんの悩みに関して相談する場所がありますか（○は1つだけ）

現在、お子さんの悩みに関して相談する場所が「あり」と回答した人は90.0%と大多数を占めています。一方で、「なし」と回答した人は8.6%となっています。多くの家庭が何らかの相談先を持っていることがうかがえますが、相談できる場所がない家庭も一定数みられます。こうした家庭が孤立しないよう、身近で相談しやすい窓口の周知や、必要な支援につながりやすい体制づくりが求められます。

件数(n値)	209
あり	90.0%
なし	8.6%
無回答	1.4%

問 18 問 17で「あり」と回答された方にお伺いします。普段、悩みや困ったことをどなたに（どこに）相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

「利用事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス等）」が76.6%で最も多く、次いで「家族」が73.4%、「友人・知人・親族」が56.4%となっています。「通園施設や保育所（園）、幼稚園、学校の先生」も43.1%と多くなっています。相談は身近な事業所や家族に集中しており、公的相談窓口の認知度向上と利用しやすいさの改善が求められます。

件数(n値)	188
家族	 73.4%
友人・知人・親族	 56.4%
ボランティア	0.5%
近所の人	 3.2%
職場の上司や同僚	 7.4%
利用事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス等）	 76.6%
障害者団体や家族会	 2.1%
かかりつけの医師や看護師（医療機関）・訪問看護の職員	 33.5%
病院のケースワーカー	0.5%
民生委員・児童委員	0.0%
通園施設や保育所（園）、幼稚園、学校の先生	 43.1%
障害者相談支援センター	 4.8%
計画相談支援事業所	 32.4%
障害福祉課	 2.1%
子ども総合センター（子ども発達・小児在宅支援室含む）	 13.8%
子ども未来課・幼保支援課・子育て支援センター	 8.0%
保健医療課	0.0%
市の教育委員会	 1.6%
児童相談所	0.5%
インターネット・ソーシャルネットワーク（メール・ラインなど）	 9.0%
相談できる場や人がいない	0.5%
その他	 4.8%
無回答	1.1%

問 19 相談に関して困っていることはありますか（あてはまるものすべてに○）

「特に困っていることはない」が 51.7%と最も多く、半数を超えています。一方で、「専門的な相談窓口が不足している」が 21.1%、「気軽に相談できる場や人がいない」が 20.1%となっており、相談先の専門性や利用しやすさに課題を感じている人も一定数みられます。

困りごとがない人が多い一方、専門的・気軽な相談先を求める声もあり、相談窓口の充実に加え、身近で利用しやすい相談体制や、必要な支援に円滑につながる仕組みづくりが求められます。

件数(n値)	209
近所に相談の場や人がいない	10.0%
気軽に相談できる場や人がいない	20.1%
夜間・休日に相談できる場や人がいない	6.7%
専門的な相談窓口が不足している	21.1%
コミュニケーション支援が十分ではない	12.0%
特に困っていることはない	51.7%
その他	4.3%
無回答	4.8%

市民アンケート調査結果

問5 あなたの身近に障害（身体・知的・精神）のある人はいますか （○は1つだけ）

「いない」は54.0%、「いる」は39.7%となっています。
身近に障害のある人がいない市民が半数を超えていることから、日常的な接点の少ない層にも障害理解を広げる取組が求められます。

件数(n値)	302
いる	39.7%
いない	54.0%
わからない	5.6%
無回答	0.7%

問6 問5で「いる」に該当された方にお聞きしますが、障害のある人とどのような交流を持っていますか（あてはまるものすべてに○）

障害のある人との交流は「家族や親族」が56.7%で最も多く、「無回答」を除くと「職場のスタッフ」が10.8%が続いています。
交流は家族・親族など身近な関係に集中しており、地域や学校、ボランティア活動などを通じた多様な交流機会の充実が求められます。

件数(n値)	120
家族や親族	56.7%
友人	4.2%
職場のスタッフ	10.8%
学校の先輩・後輩	0.8%
ボランティア活動の参加者や仲間	2.5%
ホームヘルパーや施設の職員	4.2%
その他	6.7%
無回答	23.3%

問7 あなたはこれまでに障害のある人を支援したことがありますか
(あてはまるものすべてに○)

「日常生活の手助けをした」が44.4%で最も多く、次いで「支援をしたことはない」が34.4%となっています。
日常的な支援経験がある層が一定数いる一方で、支援経験のない層も多いため、身近にできる支援の周知や参加のきっかけづくりが求められます。

件数(n値)	302
日常生活の手助けをした	44.4%
介護や看護の経験がある	24.5%
話し相手や相談相手として支援した	23.2%
ボランティア活動や寄付、募金を行った	15.2%
支援をしたことはない	34.4%
その他	2.3%
無回答	2.0%

問 11 あなたは、障害のある人に関係する次の言葉などについて知っていますか
(①から⑧のそれぞれについて、いずれか1つに○)

障害のある人に関係する言葉などの認知度は、「④パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピック」で「言葉も内容も知っている」が42.1%、「言葉は知っている」が43.0%と高い一方、「①インクルーシブまたはノーマライゼーション」は「全く知らない」が54.6%、「⑧桑名市障害者計画・障害福祉計画」は「全く知らない」が53.0%となっています。
スポーツ関連の用語に比べ、制度や市の計画に関する認知度は低く、障害者施策の基本的な考え方や市の取組を市民にわかりやすく伝える必要があります。

	件数(n値)	言葉も内容も 知っている	言葉は知って いる	あまりよく知 らない	全く知らない	無回答
①インクルーシブまたは ノーマライゼーション	302	12.3%	13.6%	16.2%	54.6%	3.3%
②アクセシビリティまた はバリアフリー	302	40.7%	40.4%	9.9%	7.0%	2.0%
③ユニバーサルデザイン	302	34.4%	28.8%	11.3%	22.2%	3.3%
④パラリンピック、ス ペシャルオリンピッ クス、デフリンピッ ク	302	42.1%	43.0%	8.6%	4.0%	2.3%
⑤障害者基本法	302	5.0%	24.2%	31.1%	36.4%	3.3%
⑥障害者総合支援法	302	3.6%	15.6%	34.1%	43.7%	3.0%
⑦障害者週間	302	3.3%	15.2%	33.1%	45.7%	2.6%
⑧桑名市障害者計画・ 障害福祉計画	302	1.3%	8.9%	34.1%	53.0%	2.6%

問 12 あなたは障害のある人に関する次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思いますか

(①から⑬のそれぞれについて、いずれか1つに○)

障害のある人に関する活動への参加意向は、「参加していないが、内容によっては、今後参加したい」が多くの項目で高く、特に「⑬障害のある人の地域のまちづくりへの参加」が54.3%、「⑤ボランティア活動」が53.0%、「⑨とともに学び遊べる場づくり」が51.0%となっています。一方、「参加しておらず、今後も参加したいとは思わない」は「⑩小中学校・高校における福祉教育の講師」で67.9%、「⑦外出時の付き添い」で56.6%となっています。内容によっては参加したい市民が一定数いるため、参加しやすい活動内容の工夫や負担感の少ない関わり方の提示が求められます。

	件数(n値)	既に参加して いて、今後も 参加したい	既に参加して いるが、今後 は参加したく ない	参加していな いが、内容に よっては、今 後参加したい	参加しておら ず、今後も参 加したいとは思 わない	無回答
①スポーツ・文化活動を通じた交流	302	2.6%	0.3%	46.4%	46.7%	4.0%
②障害に関する講演会や講座などへの参加	302	4.3%	1.3%	49.3%	41.1%	4.0%
③情報発信	302	1.0%	1.0%	40.4%	52.6%	5.0%
④技術・就労支援	302	2.3%	0.7%	45.0%	45.7%	6.3%
⑤ボランティア活動	302	4.0%	1.0%	53.0%	36.8%	5.3%
⑥病院やバス停までの送迎	302	2.6%	2.0%	35.4%	55.3%	4.6%
⑦外出時の付き添い	302	4.6%	1.0%	33.8%	56.6%	4.0%
⑧近所の障害者への定期的な声掛け	302	2.0%	0.7%	50.0%	42.7%	4.6%
⑨とともに学び遊べる場づくり	302	1.7%	0.3%	51.0%	42.7%	4.3%
⑩小中学校・高校における福祉教育の講師	302	1.0%	0.3%	26.8%	67.9%	4.0%
⑪障害者福祉の理解を深めるために活動する市民団体への支援	302	1.0%	0.3%	44.7%	50.0%	4.0%
⑫福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	302	1.0%	0.7%	50.3%	44.0%	4.0%
⑬障害のある人の地域のまちづくりへの参加	302	1.0%	0.7%	54.3%	40.4%	3.6%

問 16 障害者差別解消法が施行された平成 28（2016）年と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか（○は 1 つだけ）

「わからない」が 39.7%で最も多く、次いで「ある程度改善されている」が 21.9%、「あまり改善されていない」が 15.2%となっています。
改善を実感している人と判断できない人が混在しており、差別解消に向けた取組の成果や課題を市民に共有していく必要があります。

件数(n値)	302
改善されている	1.7%
ある程度改善されている	21.9%
あまり改善されていない	15.2%
改善されていない	6.6%
どちらともいえない	13.2%
わからない	39.7%
無回答	1.7%

問 17 あなたは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」で、事業主に対してその雇用する労働者に占める身体・知的・精神障害者の割合が一定率以上になるように義務づけられていることを知っていますか（○は 1 つだけ）

「はい」が 63.6%、「いいえ」が 34.8%となっています。
障害者雇用制度の認知は一定程度みられるものの、約 3 割が「いいえ」と回答しているため、制度の目的や地域の就労支援に関する周知が求められます。

件数(n値)	302
はい	63.6%
いいえ	34.8%
無回答	1.7%

問 21 桑名市は、障害者にとって暮らしやすいまちだと思いますか
(○は1つだけ)

「どちらともいえない」が 47.4%で最も多く、次いで「あまり思わない」が 23.8%、「やや思う」が 13.6%となっています。

暮らしやすさについて判断を保留する回答が多く、障害者施策の取組内容や地域での改善状況を市民にわかりやすく示すことが求められます。

件数(n値)	302
思う	2.0%
やや思う	13.6%
あまり思わない	23.8%
思わない	11.6%
どちらともいえない	47.4%
無回答	1.7%